

9月の管理

8月10日発表の1か月予報によると、8月から9月にかけて降雨量は多く、日照時間が少ない可能性が高くなっています。昨年も9月の長雨により浮皮等の果実の品質低下が見られました。気象条件に負けないよう、セルバインの散布等品質向上対策を実施しましょう。また、暑い中の作業となりますので、こまめに水分補給や休憩をし熱中症に充分注意して下さい。

☆摘果管理

表1は営農技術委員会の行った肥大調査です。本年度の果実は、8月1日時点ではやや小玉傾向で推移しています。今年度は着果が樹ごとにばらついています。着果が多い樹で、摘果が遅れている場合は表2を参考にして、小玉果・風ズレ・かいよう病等外観不良果は必ず摘果して下さい。甘夏では、冷風入庫できるような2L以上の階級を目指し、摘果を徹底しましょう。着果が少ない樹や大玉になりやすい青島についてはL・2L中心を目標に後期摘果主体とします。

表1 収穫時の階級予測

(平成29年8月1日営農技術委員会調査)

単位: %

	4L	3L	2L	L	M	S	2S
甘夏		0.0	0.4	12.1	41.7	45.4	0.6
ポンカン		7.0	14.5	33.8	36.6	8.3	
早生		4.9	13.8	17.5	49.2	13.7	0.9
青島	25.2	26.2	29.7	12.4	6.5	0	

表2 時期別肥大予測データ

	9月5日	10月1日	1果当りの葉果比
甘夏	7.1cm	8.2cm	90~120枚
ニューサマー	含核数により肥大差があるので葉果比を目安に摘果 80~100枚		
ポンカン	4.5cm	5.2cm	100~120枚
伊予柑	6.0cm	7.1cm	80~100枚
早生	4.9~5.9cm	5.6~6.7cm	30~35枚
青島	4.4~5.6cm	5.3~6.7cm	25~30枚

※中晩柑はL以上、早生はM~L、青島はM~2Lで横径を算出

☆品質向上対策

果皮強化

果皮強化のため早生温州では9月上旬に、普通・青島では9月中旬にセルバイン300倍を散布して下さい。

枝つり

果実の光環境の改善、枝折れ及び地擦果発生防止のため枝つりを行ってください。その際、水平以上には上げないように注意して下さい。

灌水

乾燥状態が続く場合は、肥大促進及び減酸対策のため灌水を行ってください。

目安としては、一週間で10aあたり10~20トン灌水して下さい。灌水が難しい園地では敷草等により土壌の乾燥を防いで下さい。

☆病虫害防除

かいよう病の発生が多くなっています。症状がみられる枝を除去すると共に薬剤防除を徹底して下さい。

ポンカン等で見られるこはん症のような症状はミドリヒメヨコバイによる食害です。ミドリヒメヨコバイは緑色をした体長3mm程度の虫です。発生が見られる場合は防除を行ってください。

サビダニが発生している園地ではサンマイル水和剤を散布して下さい。

ポン酢用橙や極早生温州のように収穫が近い物に関しては、農薬安全使用基準の収穫前日数には十分注意して下さい。基準に違反したものは受取ることができません。

表3

時期	品種	対象病虫害	薬剤名	倍率	安全使用基準
9月中旬	甘夏・伊予柑	かいよう病	コサイド3000	2,000	— (混用散布)
			クレフノン	200	
発生時	かんきつ全般	さび果黒点病	ペンコゼブ水和剤	600	収穫90日前 4回使用可
			カメムシ	アクタラ顆粒水溶剤	2,000
		ミドリヒメヨコバイ	ロディー乳剤	2,000	収穫7日前 4回使用可
			ミカンサビダニ	サンマイル水和剤	3,000

☆台風対策

襲来前対策

・かいよう病対策

かいよう病防除は襲来後より襲来前に行ったほうが効果的です。

表4 かいよう病防除

薬剤名	倍率	安全使用基準
コサイド3000	2,000	— (混用散布)
クレフノン	200	

・高接樹、幼木の枝折れ、倒伏防止(支柱に誘引、結束)

・防風垣、防風ネットの補強整備(密閉70~80%)

・ハウス等の施設の補強整備(マイカー線・ビニールの穴等の確認)

・園地の排水対策(溝を掘るなどして排水を良くして下さい)

襲来後対策

・塩害対策(襲来後降雨が無い場合、直ちに10a当りに3~5tの散水)

・かいよう病対策(襲来前対策参照)

・折れた枝、裂けた枝の除去(切り口にトップジンMペースト塗布)

・落葉の多い樹の日焼け対策(主幹にホワイトスプレー塗布)

・摘果(傷果の除去)

・倒伏した苗木、幼木等の修復(出来るだけ早い対応)